

10) Lessons Learned 「ブッシュ Jr.とオバマ政権の教育改革からの教訓」



ブッシュ Jr とオバマ政権の教育政策を批評する
デヴォス教育長官（期間 2017年2月7日 - 2021
年1月8日）

デヴォス教育長官の演説から：

「今まで教育現場の現状を変えるための多くの試みがありました。私たちは、共和党と民主党、自由派、保守派、そして、すべての人からの教育を改革するための努力を見してきました。誰もが同じ結果を目指しているからです。誰もが生徒に将来に備えてもらい、将来において成功する人生を送ることを望んでいますが、政府主体の教育改革には期待できません。」

「NCLB 法では、より強い説明責任なら教育の質向上につながると信じていました。結果、そうではありませんでした。」

「ほぼすべての州が CCSS を受け入れ、助成金数億ドルを申請しました。しかし、PISA の読解力と理科の結果が改善せず、2012 年から 2015 年にかけて数学の結果が下がりました。」

「この教訓は、教育政策で異なる部分ではなく、似た部分、つまり、ブッシュ政策もオバマ政策も、連邦政府の教育への介入の教育改善は期待できないことなのです。」

「連邦政府主体の教育政策は、NCLB 法で始まったことではありません。国レベルのより高い習熟度基準の要求は、クリントン政権の「Goals 2000」にもありました。その前は、ブッシュ Jr 政権の「America 2000」もあり、同じように高い習熟度基準を求めていました。これらは、1983 年に発表されたレーガン政権の「危機に立つ国家」の続きでした。その報告は、教育が改革されなかったら、国の将来について悲惨な警告をしていました。それは、カーター大統領が労働組合のリーダーたちに教育の連邦政府による介入を妨げるという皮肉な目標を伴う教育省の設立から続いたものでもありました。」

「質の高い教育への平等なアクセスはアメリカ人の権利であり、すべての保護者は子供がどのように教育を受けるのかを選択する権利を持つべきです。連邦政府はこの権利を守るために存在しています。逆に、保護者の反対で「バウチャー」の撤回、「チャータースクール」の閉鎖、全国のすべての学校選択制のプログラムを戻すことをしても、学

校選択は消えません。裕福で権限が強い人にとっては、学校の選択肢はまだ残ります。」

「これら全ては「教育の自由」に関係してきます。連邦政府からの自由。中央管理からの自由。生徒全員を一つの枠にはめる教育からの自由。」

「私たちの孫が、歴史のこの瞬間について子供に話すとき、「生徒ファースト」にしたのは私たちだったと、彼らに言わせてみましょう。」

翻訳：福田スティーブ利久